

ユーコンの原野にて

ユーコンの原野を安全に、良識を持って旅するために



項目:

- 原野における安全について
- 熊への安全対策
- Leave-No-Trace チェックリスト
- 先住民の土地

Yukon

ユーコンの原野にて

カナダのユーコン準州へようこそ。はるか遠くからユーコンを探索しに来られた方もいらっしゃるでしょうし、地元の方もいらっしゃることでしょう。どこから来られた方でも、ユーコンの原野に分け入るには相応の準備が必要です。

あなたが旅する場所は救助の手から遠く離れているため、正しい装備を持参することが大変重要になります。携帯電話は町なかやハイウェイに沿った限られた範囲でしか使用できないため、万が一なんらかの困難に陥った場合、自分の判断と能力に頼らなければならないことが頻繁にあります。色々な意味において、原野での旅は昔の開拓者やハンター、先住民の人々の旅と似ていると言えるでしょう。しかしながら、いくつか重要な違いもあります。

例えば、スクーカム・ジム・メイソン、ジャック・ロンドン、マーサ・ルイーズ・ブラックは、フィッシングやハンティングをするためにライセンスを取得する必要はありませんでしたが、現在ではそれが必要です。また、フィッシングやハンティングをしたり、土地を使用したりするには、法律に従わなければいけません。さらに、原野を旅する際には、人間が通った形跡を残さないようにすることが当然のこととされています。これらは、正しい知識と責任感さえあれば、決して難しいことではありません。

ではあなたの夢であった原野での旅の計画に取りかかりましょう。この冊子を手がかりとし、書店やアウトドア店、インターネット等で、原野における旅の計画に必要な情報を集めると良いでしょう。

© Government of Yukon

Revised 2019

You can obtain copies of this publication by contacting:

Government of Yukon
Department of Environment
Box 2703
Whitehorse, Yukon Y1A 2C6

867-667-5648

Toll Free (in Yukon) 1-800-661-0408, ext. 5648

environmentyukon@gov.yk.ca

Yukon.ca/travel-safe-wilderness

ISBN is 978-1-55362-856-9

Printed on 100% post-consumer recycled paper.

目次

原野における安全について	2
バックカントリーにおいて必要な技術を充分もっているかどうか確認しましょう	2
ユークンのアウトドアを上手に旅するには	3
救急医療事態への準備	5
熊への安全対策	7
Leave-no-trace (足跡を残さない) チェックリスト	9
1. 前もっての計画と準備	10
2. インパクトの少ない場所でのキャンプと旅	11
3. ゴミ・廃棄物の正しい処理法	13
4. 発見したものは、その場に残す	15
5. 焚き火によるインパクトを最小限に	16
6. 野生動物を尊重する	18
7. 周囲の人や動物に対する配慮	19
先住民の土地	20
魚釣り、狩猟、銃器	22
野生動物の部位	25
Contact	26
環境庁 Department of Environment offices	26
Visitor Information Centres	27
First Nations offices	28



原野における安全について

一般にバックカントリー・トリップは他人の助けや救助の手から遠く離れた場所での旅になります。それ故に、安全に旅するための準備と、全ての非常事態に自身で対応する準備をする必要があります。

この項では、原野において十分な安全対策の準備ができていないかを確認するお手伝いをします。しかしながら、事故の無い楽しい冒険をするために必要な技術と経験、装備を持つことはあなた自身の責任です。

もし少しでも自身の能力に疑問があれば、ガイドが同行するツアーをお勧めしま

す。ユーコンには、安全で思い出に残る旅を提供する、政府に認可されたウィルダネス・ガイド会社が数多くあります。Visitor Information Centre で入手できる Yukon Vacation Trip Planner に載っているリスト、またはユーコン観光局のウェブサイト www.travelyukon.com をご参照下さい。

バックカントリーにおいて必要な技術を充分もっているかどうか確認しましょう

もし、技術や経験無くて川旅や遠征に出発したとしたら、あなたは自身だけでなく、グループのほかのメンバーをも危険にさらすことになります。旅をする前に、アウトドア・レクリエーションのコースを受講したり、経験ある友人から技術を学ぶことが最善と言えるでしょう。アウトドア・レクリエーションのコースは、自分に自信を持たせてくれるだけでなく、同じように責任を持ってバックカントリーを旅したいという人々に出会う機会にもなります。コースに関しては、地元のアウトドア・クラブに問い合わせてみるといいでしょう。

ユーコンのアウトドアを上手に旅するには

ウィルダネス・トリップに出かける際には、突然の悪天候や危険な野生の動物に出くわす可能性に備えて、常に万全の用意しておく必要があります。

ボートでの旅

いかなるタイプのボートで旅をするとしても、整備された安全装備を準備することが義務づけられています。詳細は、Boating Safety Infoline (ボートに関する安全情報ライン、フリーダイヤル番号 1-800-267-6687) にお問い合わせるか、App store から **Discover Boating Safety app** をダウンロードするか、もしくはカナディアン・コースト・ガード (カナダ沿岸警備隊) のウェブサイト (www.ccg-gcc.gc.ca) を参照してください。

カヌー等で川旅に出かける場合には以下の知識と技術が必要です：

- 急流、川を塞ぐ倒れこんだ木、流木の渋滞への対処法
- ホワイトウォーター (急流) への備え
- 川での基礎的な救助方法

さらに、適切な救助装備と、グループ全員のための正しいサイズのライフ・ジャケット (救命胴衣) が必要です。

ハイキング

ハイキングをするときには、以下の知識が必要です。

- コンパスの使い方
- 悪条件下の川の渡り方
- 急こう配の尾根、湿地帯、足元の不安定な場所等の悪条件を通り抜ける方法

冬のスポーツ

スキー、スノーモービル、その他の雪のスポーツに出かける場合に必要な知識：

- アバランチ (雪崩) の危険性の高い場所の認知
- それらの地域で危険性を最小限に抑える方法
- 救助方法

これらの技術を学ぶには、アバランチ・トレーニング・コースを受講するのが最善の方法です。なだれの状況および情報交換は、オンライン・ディスカッション・サイト

www.yukonavalanche.ca をチェックしてください。一度原野に足を踏み入れると、そこでは自分だけが頼りなのだということを忘れないで下さい。



サバイバル・キット

どのような活動をするにしても、下記にあるような、基本的なサバイバル・キットをナップサックかベルトバッグに入れて、持って歩いてください。

- 懐中電灯、ヘッドランプ、予備の電池
- 焚火のスターター・キット
- 何か合図ができるもの、例えばホイッスル等
- 予備の（余分な）水と食べ物
- 雨や風を防ぎ 低体温症からあなたを守る衣服
- ナビゲーションと外との連絡を取るための装備
- 応急手当キット
- 緊急の避難所に必要な装備（良く目立つオレンジ色のタープや毛布）
- ポケット・ナイフ
- 日焼け止めクリーム
- 熊を避け、抑止するための装備、例えばベア・スプレー等

事前に確認しておくべきこと

ユーコンのトレイル（山道）やボートのルートには、標識が殆どついていません。また、急流のある場所や危険地帯、その他あらゆる障害物についても、それを知らせるサインもありません。従って、事前に確認をしておくことが、あなたの命を救うことになるかもしれません。

- ユーコンの書店で旅のルートに関するガイドブックを購入する。
- 地元のお店で必要な全ての地図が入手できるという保証はないため、予め旅のルートの地形図を入手しておく。地図はカナダ各地や他の国々でも入手可能です。最新のリストとダウンロードは、カナダ・マップ・オフィス (Canada Map Office) のウェブサイトでご確認ください。

そのルートを旅した経験のある人から情報を入手する。**Visitor Information Centers** やユーコン政府の環境省の職員に問い合わせてみるのも良いかもしれません。

救急医療事態への準備

怪我や病気への対応策を取っておくことは、原野における安全対策の基本のひとつです。またグループの誰に処置が必要になるかは予測できないため、メンバー全員がこれらの知識と技術を備えておく必要があります。

St. John's Ambulance と Red Cross (赤十字) とは、ウィルダネス・ファースト・エイド (原野における応急手当) の基礎クラスを初め、各種ファースト・エイドのコースを実施しているふたつの組織です。その他にも、上級または専門的なウィルダネス・ファースト・エイドのコースを実施している会社もあります。連絡先については、地元のレクリエーションセンターや救命センターなどに問い合わせると良いでしょう。

救急医療事態への準備として必要な事項

- メンバー全員のアレルギー、健康問題や医療状態を把握し、それらに対応する装備と知識を備える。
- 救急医療の道具が防水であること、原野での使用に適したものであること、ウィルダネス・ファースト・エイドについての本が含まれていること。
- 虫刺されへの対処 (過去に虫刺されの経験が無い場合には強い反応を示すことがあります)。
- 低温症の予防、認知・識別、対応方法。
- グループのメンバー全員がユークンでの医療処置に対応する健康保険に加入していることの確認。



万が一救助が必要になった場合への備え

原野における安全基準を守っていれば、救助を依頼する事態には多分ならないでしょう。しかし、万が一救助が必要な場合には、救助活動が速やかに行われるようにするために以下の事項が必要になります。

- 旅のルート、スケジュール、グループの人数、テント、バックパック、その他の装備の色などを誰かに知らせておくこと。そうすれば、もしあなたが予定日に戻らなかった場合、その人が非常事態を関係当局に通報できます。事前に自分で旅行計画を作ることもできますし、旅行の概要を **plan.AdventureSmart.ca** に記入しておく事もできます。
- Personal Locator Beacon (PLB) や衛星電話 (GPS)、VHFまたはHF ラジオ、鏡や笛、発炎筒など、非常時に信号を送る装備を持参すること（もしPLBを携帯する場合、ひと度信号を送れば直ちに救助が開始され、数百時間に及ぶ労力と数千ドルもの費用が費やされることを認識しておいた方がいいでしょう）。
- PLBだけに頼ってはいけません。サテライト/シグナルの状況、地形、天候のせいで、シグナルが妨害されることがあります。
- ユーコンの市町村の範囲外では、携帯が使えない場合が多いことを覚えておいてください。
- 場合によっては、救助活動にかかる一部あるいはすべての費用を当事者が負担しなければならないため、救助費用を補償する保険に加入しておくこと。
- 国際的に認識されている原野においての遭難信号を学ぶ。
- 単独行の場合、怪我や病気になった場合に助けを呼びに行く人がいないということ、また二人で旅する場合には、パートナーが助けを呼びに行く間、犠牲者は独りきりになるということを認識しておくこと。

さらに詳しい原野での安全対策、シグナル装備の情報は **AdventureSmart.ca** で検索してください。



公有地でのキャンプ

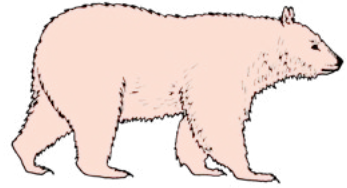
自分が所有する土地でない限り、勝手に原野に入り自分のキャビン（山小屋）を建てることは許されませんが、滞在日数が100日以下である限り、公有地にテントを設営することが許可されています。ただし事前にその土地が、先住民や市町村の土地、私有地や貸し出されている土地でないことを確認して下さい。また、勝手にその土地を開拓したり、トレイルや道路を作ったり、また自分の所有地として権利を主張することはできません。

熊への安全対策

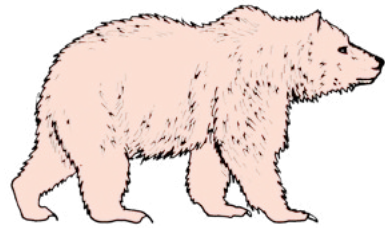
ユーコンの原野を旅する場合、熊に出くわす可能性がかなりあります。実際に襲われる危険性は少ないとはいえ、それは現実起こり得ることなのです。大切なのは、熊の生態と習性を学び、冷静に対応する姿勢を取ることです。

原野で熊に対処するには

- 常に警戒し、熊の存在や足跡、糞、掘ったばかりの穴の跡や木についた爪あとなどに注意して行動する。
- できる限り視界の良いルートを選ぶ。
- 音を出す。殊に深い森や、実がなる木が密生している場所、水の流れている場所の近くでは特に音を立て、熊に人が来ていることを知らせる。鈴よりも大きな話し声や歌声の方が効果的。
- グループで旅する。
- 近くで見るとめや、写真を撮るなどのために、熊に近づかないこと。そのためには、双眼鏡や望遠レンズを使用すること。
- 獣道や、新しい熊の形跡がある場所、魚が産卵する小川や木の実など、熊の餌が多い場所等を避けてキャンプ地を選ぶ。
- 食糧は真空パック、クマよけの特別頑丈な入れ物などにに入れる。ゴミも真空パックなどに入れて持ち出すか、もしくは燃やして、焼け残りは持ち帰る。
- ベーコンや缶詰の魚といった、脂肪分が多く匂いの強い食べ物は避ける。
- 食糧を貯蔵する場所、料理する場所は、キャンプサイトから充分（200メートル以上）離れた所、できれば風下を選ぶ。
- 夜には、食料は少なくとも地面から 2.5 m 以上離れるように、木からロープで吊るす。
- ベア・スプレー（熊撃退スプレー）、または大きな音を出す金具かホーン等の、クマよけの道具を携行する。旅に出る前に、使用法を学ぶ。



クロクマ



グリズリー・ベア

「How you can stay safe in bear country」を読み、熊に対する安全対策を学ぶ。Visitor Information Center、もしくは Environment Yukon のオフィスにて資料を受け取るか、もしくは下記のウェブサイトからダウンロード可。Yukon.ca/stay-safe-bear-country。

もし熊に出会ったら

落ち着くこと。立ち止まって状況を判断すること。この時点で走ったり、座り込んだり、死んだふりをしたりしないこと。熊との遭遇は、熊があなたに実際に襲い掛かってきた場合のみ、真の攻撃となります。

もし熊があなたに気づいていない場合

熊の注意を引かないようにその場を去る。熊の居るところを遠く避けて通るか、熊が居なくなるまで待つ。

もし熊があなたに気づいたら

低い声で熊に話しかける。腕をゆっくり振って、後ずさりする。決して走ってはいけない。

もし熊が近づいてきたら

その場に踏みとどまる。落ち着くこと。もし他の仲間たちと一緒にいたら、グループで固まる。ベア・スプレーを使う用意をする。バックパックを背負っているなら、頭や首の守りになるかもしれないので、そのまま背負っておく。熊の様子を観察して、自己防衛的かそうでないかを見極める。

もし熊がストレスを感じているようだったら、(あくびをしたり、うなったり、ハーハー言い始めたり、喉頭音や唾液を出したり、手足を地面に打ち付けたり、短い脅かしの攻撃姿勢を見せたりする)、それは自己防衛のサインです。もしかすると自分の小熊や、動物の死骸(熊の食料)が周りにあるのかもしれない。自己防衛の熊は脅威と感じるものを除去するために襲いかかるのです。

- 自分は熊にとって危険なものではないことを知らせる。
- 落ち着いた声で話しかける。
- ゆっくり後ずさりを始める。
- もし熊が近づいて来たり、攻撃の姿勢を見せた場合には、その場に踏みとどまって、熊に向かって声をかけ続ける。熊が襲い掛かってきそうだったら、ベア・スプレーを短く噴射する。
- もし熊が襲い掛かってきた場合、地面に倒れて死んだ振りをするれば、熊は危険を感じなくなるでしょう。熊に転がされるのを防ぐために地面にうつぶせになり、両手を首の後ろで固く結び、足を少し開いておきましょう。
- 熊の攻撃が済んでも、熊がその場を立ち去るまではそのまま死んだ振りを続ける。

もし熊がストレスを感じていないように見えたら(頭と耳を立ててあなたを観察し、後について来たりする場合)、それは自己防衛の必要を感じていないということです。恐らく好奇心を示しているのか、もしくは食べ物や、あなた自身を獲物として興味を持って見ているのです。

- 力強い声で話しかける
- 熊の通り道から離れる
- もし熊が後を追ってきたら、立ち止まる。今こそ、本当に危険な状態です。叫んだり、攻撃的な素振りをして下さい。丸太の上に立つなどして、自分を大きく強く見せ、足踏みして下さい。熊が、5メートル(15フィート)以内まで近づいたら熊の鼻や目にめがけて、ベア・スプレーを噴射して下さい。
- もし熊が襲ってきたら、あらゆる物を武器にして目や鼻を攻撃して戦って下さい。決してあきらめないことが大切です。

もし自己防衛のために熊を殺してしまった場合は、出来るだけ早くコンサベーションのオフィサーに報告して下さい。

Leave-no-trace (足跡を残さない) チェックリスト

ユーコンの自然の緑と純粋さを守るために

この項では、原野を旅するにあたり人間の通った跡を最小限に抑える、あるいは全く残さない (Leave-no-trace) ための方法を述べていきます。私たちの共通のゴールは、ユーコンへの旅行者と居住者、両者にとって質の高い原野体験の場所を守っていくことです。

初めてユーコンや原野での旅に出かける方にとって、野生地における Leave-no-trace の原則に従い、より適切な行動を実践するために、この案内書はきっとお役に立つことでしょう。

インパクトとは？

人間の行動が自然環境または他の人の自然経験に与える影響をインパクトといいます。最も明確なインパクトは、原野に残されたごみです。もう一つは、多くの人がキャンプや旅をしたために荒れ果ててしまった地面や植物でしょう。また、見落とされがちな今一つのインパクトに、人間がバックカントリーに持ち込んだ食べ物や置き去りにする廃棄物に刺激されたことによる野生動物の行動の変化があります。

あるインパクトが生態系にダメージを与える一方、その他のインパクトは原野の自然の美しさをひどく傷つけます。例えば、トイレット・ペーパーが風に吹かれて川辺の木に引っかかっていることでの環境へのインパクトは小さいかもしれませんが、それが原野での旅の楽しみを壊すことにもなり得るのです。

北米で起こっているLeave-No-Traceの輪

ここでご紹介するチェックリストは、北米の様々な団体や政府から発行されている数多くの Leave-no-trace についての指導書のひとつです。いくつかの項目はユーコンならではのものであり、それらは地元で原野を旅した人々からの提案に基づいています。しかしながら、一般的な趣旨は他の Leave-no-trace の文献にある考えと一致しています。

Dept. of Environment では、Leave-no-trace の活動において北米でリーダー的存在であるカナダの Leave-No-Trace センターによる教育的、そして倫理的な原則を採用しています。このチェックリストの見出しは、その原則から引用しています。Leave No Trace は単なる一定の規則のセットではありません。自然を尊敬しお互いを尊敬しあおうとする気持ちを起させるのが、その究極の目的です。



1. 前もっての計画と準備

旅行の計画は事前に余裕をもって立てましょう。Leave-no-trace を計画に組み込むことはその第一歩です。下記に挙げたようなテクニックは常識です。これらを実践することによって、それが次第に習慣になっていくことでしょう。

- 大人数のグループは、それだけ自然に与えるインパクトも大きいので、少人数での旅を計画しましょう。グループには2人から6人が適当です。もし大人数のグループをいくつかの少人数のグループに分けることができれば、全体的なインパクトを抑えることができます。
- 旅に出る前に集まって、グループのメンバーと Leave-no-trace の技術についてよく話し合い、計画を立てましょう。
- 前もってしっかりと食糧計画を立てれば、食料不足にならず、しかも廃棄物も少なくできます。
- ゴミの量を減らすために、包装しすぎているような品物は極力避けましょう。密閉できるビニール袋や容器に食料を入れ替えると、荷物が軽く小さくなり、また野生動物を刺激する匂いの問題も解消します。
- 新鮮な肉や魚、その他魚介類など匂いが強く、また腐りやすい食べ物は、餌を探す動物を刺激するので避けましょう。これらの食糧でも、小さな1食分の缶詰であれば大丈夫です。缶詰の缶は燃やして持ち帰り、最も近いリサイクリング用のゴミ箱がコミュニティ・リサイクリング・センターに持っていきましょう。
- りんごやオレンジなどの皮、その他の果物、野菜の残り物などは、袋に入れて持ち帰ること。野生動物を引き付ける原因になるし、小さな動物には有害です。また北の地では、分解するのに長い時間がかかります。
- 旅をする地域の野生動物について予め調査しておけば、動物や自然に与えるインパクトを最小限に抑える方法も学べるでしょう。野生動物観察についての情報は Dept. of Environment の Web サイトで閲覧できる他、冊子を Dept. of Environment のオフィスやビジター・インフォメーション・センターにて入手できます。
- この冊子の適切な箇所を読んで、先住民の土地を旅する場合の法律について学んでおいてください。
- 安全の確保とインパクトを最小限に抑えるために、旅やキャンプの装備は注意して選びましょう。あらゆる状況や環境を想定して計画を立てることが大切です。
- インパクトの少ないレートやキャンプ地を計画するために、地形図を使いましょう。このためには、普通5万分の1や25万分の1の地図が最も適しています。地形に注意して下さい。
- 火の確保とインパクトを最小限に抑えるために、キャンプストーブと十分な燃料を準備しましょう。もし焚き火をするつもりであれば、マウンド・ファイヤー（地面にビニールシートなどを敷き、その上に砂利や土を積み上げ、その上で火を焚く方法。使用后、砂利や土を撒き散らせば、焚き火の跡が残らない）のためのシートか焚き火用の箱（金皿）を持参しましょう。
- 自分の排泄物を持ち帰る場合には、適切な容器を持参して下さい。



2. インパクトの少ない場所でのキャンプと旅

ハイキングに出かける時

ハイキングをする人にとって最も大切なのは、植物の再生を常に考慮に入れて、できるだけ痛めないように健康な状態に保つことです。

- 既存のトレイルを利用し、不必要なインパクトを避ける。もし野生動物の形跡がトレイルに残っている場合には、特に注意を払うこと。詳細は、この冊子の熊の安全対策（7ページ、8ページ）をご参照下さい。
- トレイル上では、一列縦隊で歩き、たとえぬかるんでいてもトレイルを広げないようにすること。
- トレイルが無い場所では、なるべく砂利の河原、砂地や岩場、雑草の多い場所など地盤の強い場所を歩く。急斜面や地盤の悪い斜面、濡れて滑りやすい場所などは避けること。もし植物の密生した場所を横断しなければならない場合には、新しいトレイルを作らないように、散らばって歩くこと。
- 冬季には、雪が降るたびに人の通った跡はかき消されるでしょう。高山地帯や春の雪解けの季節には、水分を多く含んだ土の上を歩くことは避けること。

キャンプする時

たとえ一晩の滞在であっても、その土地や次にその場所を旅する人たちに永続的な影響を残すことがあります。そのため、以下の提案を踏まえておいて下さい。

- 良いキャンプ地を見つけるには、早い時間から場所を探し始めること。
- キャンプ地を小さくまとめる。行動する場所は、植物が無い場所や耐久性のある場所に限ること。
- 新しくキャンプを作らずに、できるだけ既存のキャンプ地を選ぶこと。可能な限り、来たときよりもきれいな状態でキャンプ地を離れる。掃除すること、焚き火の場所の数を減らすこと、ダメージを受けた場所が再生するように心がけることなどは、次にキャンプ地を使う人により良い環境を残すことになります。
- 未使用の場所でキャンプする場合には、インパクトを残す可能性の少ない、広い岩場や砂地、砂利、雪や氷など、耐久性のある場所を選ぶこと。キャンピングマットや衣服で、寝る場所を平らにすることができます。もしそういったところが見つからない場合は、キャンピングのインパクトに耐える植物 — 砂利の多い、水はけのよい、平らな場所に生える植物 — の上を選んでください。雑草、キニキニク、アークティック・ウィローやマウンテン・エーヴェンなどが良い例です。
- 水上を旅している場合には、砂利地や砂地でキャンプするといいでしょう。キャンプによる多少のインパクトも、普通は春の増水によって消滅します。ただし、大雨が降った場合には、永久凍土や突き出た岩床は殆ど水を吸収しないため、急激に水位が上がる可能性があり、キャンプ地を選ぶ際には特別な注意を払う必要があります。
- 水から上陸する箇所からキャンプ地へのルートや、その他よく使用する場所に行く道は、できるだけ跡を残さないよう、なるべく短く、またルートを時々変えたりするように心がけること。キャンプ地では軽いランニング・シューズやサンダルを履くと、インパクトを軽減できるし、足の痛みを和らげる助けにもなります。

3. ゴミ・廃棄物の正しい処理法

ゴミは野生地におけるもっとも深刻な問題のひとつですが、その殆ど全てをきちんと処理する方法があります。

- トイレ紙や女性の生理用品など、動物を刺激する匂いのあるものは、キャンプ・ファイヤーが熱いうちに燃やしてしましましょう。キャンプ・ファイヤーの灰の中に残った燃えカスは、全て持ち帰るように。
- ゴミやトイレ紙など、燃やさない場合にはきちんと持ち帰りましょう。バッグは2重、3重にすると匂いを防ぐことができます。再利用可能な真空バッグや容器を使用すると更に効果的です。
- ゴミは絶対に埋めないで下さい。野生動物が掘り起こして周囲に散らばしたり、またそれが原因で怪我をしたり死んだりするかもしれません。全て持ち帰って下さい。
- キャンプ地を去る前に、もう一度ゴミが落ちていないか点検して下さい。袋を結ぶためのひもや、細かい食べ物のカス、プラスチックの破片といった小さなものは見落としがちです。人がいたことをキャンプ地に残さないようにするというのは、やりがいのある挑戦である、と考えてください。



ウィルダネス・ツアー・オペレーター（ライセンス登録したツアー会社）は、野生地における Leave-no-trace の旅と廃棄物の処理についての特別な規則を守ることが義務づけられています（Yukon Wilderness Tourism Licensing 条例）。詳細は、Registrar にお問い合わせ下さい。Phone (867) 667-5648 または email yukon.parks@gov.yk.ca.

汚水と残飯の処理

- まず、食器は容器の中で洗います。それから、テントや水溜まりの場所から離れた所に掘った穴に洗い水を捨てます。キャンプ地を去る前に、穴をきちんと埋めることを忘れないように。なお、水を捨てる際には、ザルのようなものを使って残飯を取り分け、それらは持ち帰るか燃やすこと。こうすれば、食べ物の匂いを抑え、水源の汚染を予防し、また岸辺に残飯が残らないようにできます。
- もしくは、洗剤を使っていない洗い物の水を、食べ物のカスを取り除いた後、流れの速い川に捨てることもできます。この際には、流れが早いところに水を振りまくようにしてください。食べ物の匂いを完全に絶つためには、この方が穴を掘って水を捨てるよりも良い方法です。
- 他に食べ物の匂いを残さない方法として、キャンプ地に到着する前に他の場所で食事を取ることもあります。料理の匂い、こぼれカスや洗い物をした水などから離れた場所でキャンプすれば、エサを探す動物が寄ってくることもありません。
- 石鹸、歯磨き、シャンプー等をなるべく使用しないようにしましょう。Biodegradable（生分解性）の製品の使用は不可欠です。無垢な湖や小川などを汚染しないよう、水から離れた場所で使用して下さい。

人間の排泄物

- アウトハウス（野外便所）があるところはそれを使ってください。
- トイレに行く場合には、水辺から最低60メートル離れた場所、もし増水した際に冠水するような場所だったら、更に離れた場所で、肥沃な地質と元気な植物のある地面を小さなシャベルで15センチほど掘って排泄します。その後、土を少しかけ、腐敗を促進するために木の枝などで土と混ぜて、最後に土を完全に被せます。場所は、他の人の穴やキャンプ地から十分距離を置いた場所を選ぶようにしましょう。
- 北の地でのバクテリアの作用は南方に比べて非常にゆっくりしています。したがって、有機性のゴミや人間の排泄物が腐敗するのもかなり時間がかかります。
- 永久凍土は腐敗にかかる時間をもっと長くします。トイレの場所は、永久凍土が深い所にあるか、全く無い場所を選ぶ、もしくは土がある程度の深さまである所を選ぶようにしましょう。南向きの開けた斜面が最も適しています。
- キャンプ地に到着する前に、行程の途中でトイレ休憩していきましょう。こうすることで、使用度の高いキャンプ地のインパクトを軽減することができます。
- 使用したトイレットペーパーや女性ナプキンは、紙の袋に入れて焚き火で燃やすか、他のゴミと一緒に持ち帰りましょう。また、トイレットペーパーの代わりに、苔や木の葉、雪や草といった、自然分解の早い自然のものを使うこともできます。
- 大人数のグループで、同じ場所にしばらく滞在する場合には、共同で使用するトイレの穴を掘るか、自分の排泄物を持ち帰るようにしましょう。穴は、最低でも30センチの深さで、水辺から60メートル離れたところに掘って下さい。誰かが使用する度に少しずつ土を被せていけば自然分解を促進し、また匂いも抑えます。しかしながら、グループを少人数におさえ、キャンプ地を毎日移動していく事が、やはり一番です。



4. 発見したものは、その場に残す

歴史的なもの

- 歴史的なアーティファクトや考古学の標本、化石などには触れないで下さい。それらを正式な許可なく収集するのは違法です。もし、偶然に歴史的なアーティファクトや場所を発見した場合には、Cultural Services Branchに、もしそれが先住民の土地であった場合には、その先住民事務所に報告しなければなりません。できればGPS の位置を記録、報告して下さい。詳細は Cultural Services Branch, (867) 667-5983 ユーコン内のフリーダイヤル1-800-661-0408、内線5983にお問い合わせ下さい。または、メールアドレス heritage.resources@gov.yk.ca にお知らせ下さい。

自然をそのままに

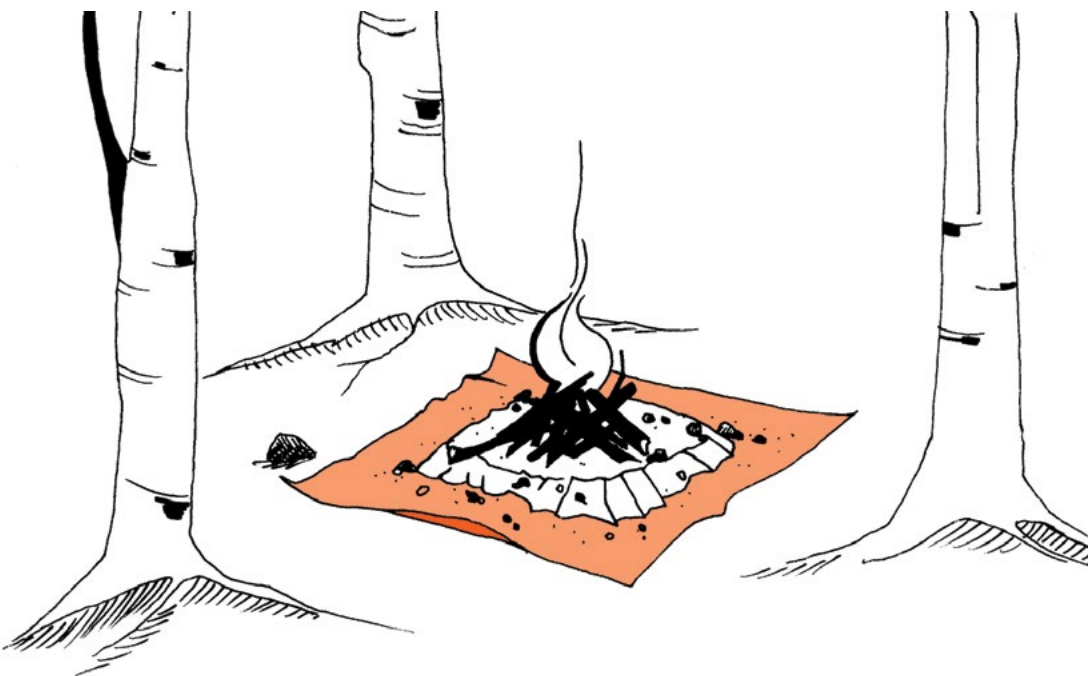
- 木を切ったり、野生のベリー（木の実）や花を必要以上に取ったり、壕を掘ったり、テーブル、仮の小屋 (Shelter) その他の物を作ったりすると、次に訪ずれる旅行者の自然を味わう楽しみをそこなうし、また野生の動物達の生存に必要な食物や住みかに重大な影響を与えてしまうかもしれません。石、植物、その他の自然のものは、そのままに残しておいてください。
- 非在来種の持ち込みは、絶対避けてください。

ごみ・廃棄物

ゴミ

野生地にゴミを捨てるのは、ユーコンの環境条例に違反する行為です。





5. 焚き火によるインパクトを最小限に

ユーコンには至るところに薪が豊富にあります。しかし、場所によっては、焚き火のために石で丸く囲み、地面が黒く焼けた場所や、その他のキャンプファイヤーによるダメージ、木の枝を折られた跡など、原野らしい美しさが損なわれてしまった所もあります。

キャンプファイヤーはまた、森林火災の原因にもなります。多くの火災が、キャンプファイヤーをきちんと処理できない旅行者の手によって起こされています。また火の粉が、泥炭（ピートモス）や木の根を通じて、何日、何週間、そして何ヶ月もかけて地面の下でくすぶり続けて、その後発火するのです。

安価で軽く、効率が良く信頼性のあるバックパッキング用のキャンプストーブは数多くあり、焚き火をする必要性がなくなっています。いつでもオプションとして使用できるように、この種のキャンプストーブを常に携帯してください。明かりのためには、ランタンを使用できます。いずれにしても、安全と思われる場所で焚き火をする場合には、以下の提案事項に沿って行うようにして下さい。

木の伐採

有効な許可証無しで木を伐ることができるのは、焚き火に使うためのみです。この場合も、枯れ木に限って使うことができます。（倒木もしくは立ち枯れ）。



- 地面で直接焚き火をすると、その傷跡がどうしても長く残ってしまいます。火は、植物を傷つけるだけでなく、土も駄目にしてしまいます。もし焚き火をするかしないか迷っている場合には、焚き火が本当に必要であるかどうか、またその影響についても考慮して下さい。
- 既存の焚き火の場所を使う。もし焚き火の場所が数箇所ある場合、できれば必要のないものを消去して下さい。
- 火は小さく焚く。
- 焚き火をするに当たっては、焚き台か、下記のマウンド・ファイヤーのテクニックを使うことを考慮して下さい。地面の植物を熱で傷つけないために、大きなシートの上に既にダメージを受けている場所から持ってきた砂や砂利を約20センチ積み上げます。使用後は、砂や砂利を元の場所に戻して下さい。
- 薪には、倒木などの枯れ木のみを使用して下さい。スプールの木の、枯れて乾燥した細い枝は、火を点けるのに便利です。乾燥して細く枯れたウィロー（ヤナギ）の木は、煙も少なく良く燃えます。薪は必要な分だけ色々な場所から集め、火はできるだけ小さく保ちましょう。ノコギリを使って切った跡は、誰かがそこにいたという証拠を明白に残します。ノコギリの使用は、後から来る人のことを考えてください。
- 薪や炭は灰になるまで完全に燃やして下さい。手で触れて熱い場所が無くなるまでかき混ぜながら水をかけて下さい。焼け残ったゴミは集め、灰は周囲にばら撒いて下さい。
- 砂地や砂利地は、洪水の危険さえなければ、焚き火をするには最高の場所です。このような場所では、焚き火の跡も増水期に流されてしまいます。しかしながら、植物への影響を抑えるためには、やはり岩の上でマウンド・ファイヤーや焚き火用の箱・金皿を使用することをお勧めします。
- 焚き火が禁止されている場所、焚き火をしたら危険な地域、枯れ木が少ない場所では、キャンプストーブを使用して下さい。
- 冬の雪深い場所や氷の上での焚き火は、正真正銘のno-trace（跡を残さない）ファイヤーと言えるでしょう。小さな焚き火であれば、使用後もまだ火が地面まで届いていないかもしれませんが、残ってばら撒いた灰も、その数日後の積雪できれいに覆い被されることでしょう。





6. 野生動物を尊重する

野生動物の観察は、原野を旅する楽しみのひとつです。動物との間に十分な距離を保ち、静かに観察すればゆっくり楽しめるし、動物に与えるストレスを最小限に抑えることができます。

- 野生動物にエサを与えないこと。野生動物にエサを与えることは違法であるばかりでなく、彼らの健康を損ない、習慣を変え、天敵やその他の危険にさらすこととなります。
- 動物の観察には双眼鏡、望遠鏡、カメラの望遠レンズ（300 mm以上）が最適です。これらを使用すれば、安全な距離を保ちながら、野生動物の自然な行動を観察できます。もし動物が人の気配に気づいたとすれば、それは恐らく近づきすぎているために、動物にストレスを与えているのです。それと同時に、自分自身と動物の両方を危険に陥れていることにもなります。
- 巣や巣穴、採餌場所や発情、交尾の場所など、明白な野生動物の形跡がある場所ではキャンプしないこと。
- 食糧をきちんと保管、処理し、野生動物とあなた自身の食糧を守りましょう。キャンプ地は常にきれいに保ちましょう。
- 逃げたり、後退している野生動物を追いかけないで下さい。子供と母親を引き離しているかもしれませんし、動物のエネルギーを無駄に消耗させたり、あなた自身を危険な状況に陥れることにもなりかねません。
- 孤児のように見える野生動物の子供を見たときには、特に注意して下さい。大抵の場合、母親が近くにいることが多く、近づけば母親が子供を守るために襲ってくる可能性があります。殆どの場合、そのまま放っておくことが最善です。
- ペットはきちんとついででコントロールするか、もしくは家に置いて行きましょう。
- 交尾、巣作り、子育てや冬季など、敏感な時期には野生動物を避けましょう。

7. 周囲の人や動物に対する配慮

みんなが楽しい時を過ごせるように、その土地の住民や旅行者たちに相応の配慮を配りましょう。道で会った時にはゆずりあい、礼儀正しくしましょう。キャンプはトレイルから離れたところに、他の旅行者たちから離れたところに設置しましょう。

- 騒音はもちろん、派手な色のテントや服装でさえ、原野における経験を侵害しかねません。一方で、状況によっては物音を立てることで熊に遭遇する危険を回避できる可能性もあります。また明るい色の装備が救助や飛行機によるピックアップの際には重要なことになるかもしれません。つまり、正しい行為や装備というのは、その状況によるのです。
- ハンターやトラッパーに出会うことがあるかもしれませんが、敬意を払い、トラップ（わな）の妨害をしないでください。
- 大切なのは、計画を立てる際や実行する時に、他の人のことも考えるということです。

更に詳しい情報

ユーコンにおいて Leave-no-trace のトレーニングを行っている組織は National Outdoor Leadership School (NOLS)。

更に、Leave-no-trace の実践について包括的な理解を促す素晴らしい書籍やウェブサイトもあります。Leave No Trace Canada のサイト www.leavenotrace.ca で情報を得ることができます。



ウィルダネス・キャビン

バックカントリーで見かけるキャビンの殆どは、冬のわな猟シーズンの間に使用される、ライセンスを持つわな猟師の物です。原野で見つけたこれらのキャビンや、わな、装備などを荒らしたりしないで下さい。多くの場合、猟師たちは、キャビンが元のままの姿で、装備があるべきある場所にあることを当然のことと期待して、毎冬そこに戻って来るのです。



先住民の土地

ユーコンのどこを旅していても、あなたは先住民の伝統的な土地にいます。伝統的地域とは、先住民とその祖先たちが長年伝統的に使っていた土地です。

居住地域は、伝統的地域の中で、先住民が最終的協定をした土地です。居住地域の内部を旅するのかどうかを調べて下さい。もしあなたが先住民ではなく、居住地域を旅行するなら、規則を知り、その規則に従ってください。

先住民の居住地域を把握する

先住民の居住地域は、環境庁、または、先住民のための先住民の居住地域事務所で詳しい地図を閲覧することができます。

開発されていない地域を旅し、キャンプする場合

一般的立ち入り権利の概要は開発されていない地域にだけ当てはまります。

開発されていない地域というのは、連邦政府、準州政府、該当する先住民の政府との間での協定がまだ指定されていない地域をいいます。建物が何も建てられていないからといって、開発されている地域かどうかは、一概に言えません。自分が立ち入ることができるかどうかを知っておくのはあなたの責任です。

あなたの権利

キャンプや釣りといった、商業用でないレクリエーションが目的の場合、下記の責任事項を守れば、開発されていない先住民の領土に一定の期間入って横断、滞在する権利があります。

あなたの責任

開発されていない土地に入る場合、以下の事は避けて下さい。

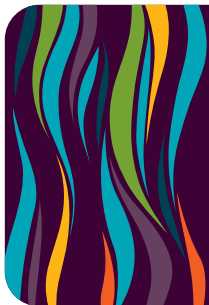
- 土地や建物を損傷・破壊する行為
- 故意のいたずら、器物損壊
- 先住民の領土の利用や楽しみを妨害する行為

これらの行為は、不法侵入者とみなされます。

水辺での権利・通行権

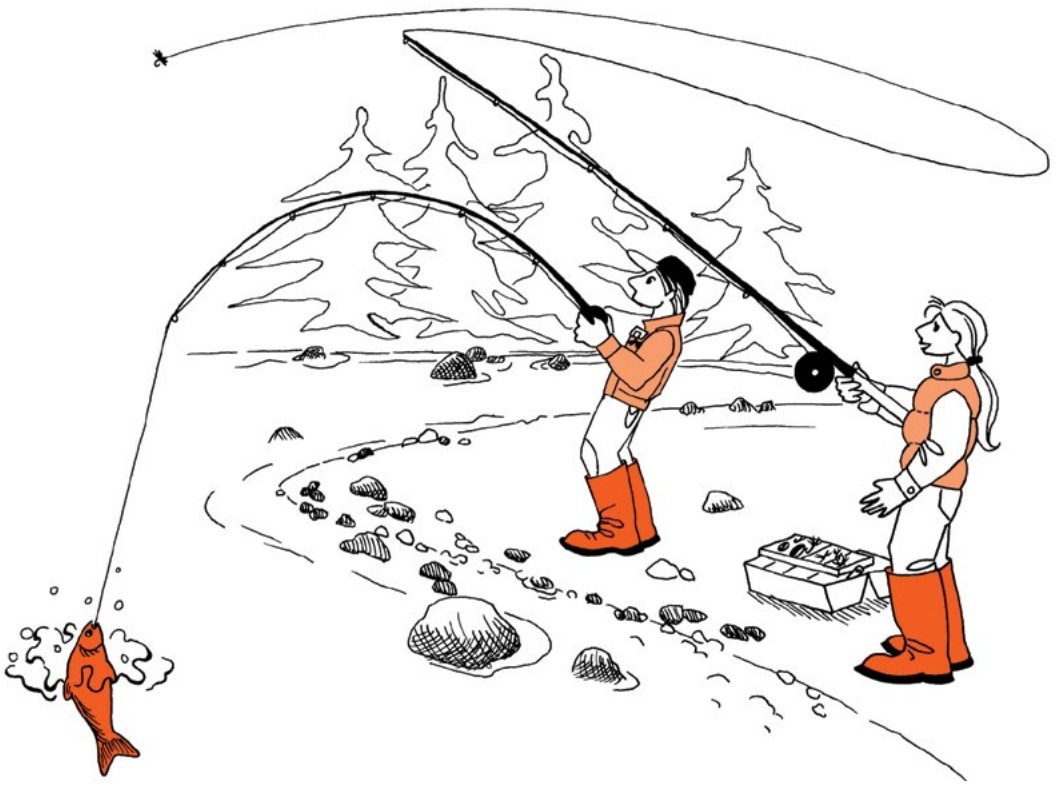
水辺を利用する権利に関しては、先住民の土地の内部または周辺を含めて、殆どの場合最高水位標識より岸の内側へ向かって 30 メートルまで、公用の水辺の権利とみなされています。この領域以内では、休憩やキャンプをしたり、倒木を焚き火に使用することが許されています。

しかしながら、先住民の土地では、場所によって水辺の優先権の区域であっても、一般のキャンプやフィッシングが禁止されている場所もあるので注意が必要です。これらの場所は、Yukon.ca/lands-closed-fishing-shore に明記されています。



詳しい情報

あなたが旅をしようとしている地域については、ユーコン環境庁 (**Dept. of Environment**) のオフィス、もしくは旅する場所を管轄している先住民のオフィスで詳しい情報を得ることができます。



魚釣り、狩猟、銃器

魚釣り概要

ユーコンで釣りをするには、魚釣りライセンスが必要です。鮭を釣るためには、それに加えて Salmon Conservation Catch Card が必要です。

ライセンスを買うと、魚釣り規則要綱 (Yukon Fishing Regulations Summary) の冊子がわたされます。この規則冊子は、英語、フランス語、ドイツ語が用意されています。ユーコンに生息するすべての魚の種類がイラストで紹介されています。この冊子に書かれている捕獲制限数や、その他の規則すべてを守らなければなりません。

魚釣りライセンス Angling Licence は、Yukon.ca/yukon-fishing-licence にてオンラインで購入できますし、ユーコン環境庁 (Dept. of Environment) のオフィス、またはユーコン各地にあるハイウェイ沿いのロッジ、スポーツ用品店、コンビニなどでも購入できます。

ハンティングについての概要

ユーコンで狩猟をするには、有効なハンティング・ライセンスが必要です。ライセンス購入時にユーコンでの狩猟規則の書かれた小冊子を渡されます。この冊子に書かれている捕獲制限数や、その他の規則すべてを遵守しなければなりません。ハンティング・ライセンスは、**Yukon.ca/yukon-hunting-licence** にて、オンラインで購入できます。また ユーコン環境庁 (Dept. of Environment) のオフィスでも購入できます。

ユーコンに1年居住した後は、居住者のための big game hunting licence (大型猟獣ハンティング・ライセンス) を取得できます。このライセンスでは、Big Game (大型の猟獣類) と Small Game (小型の猟獣類) を獲ることができます。青少年 (1987年の4月1日以降に生まれた人) 居住者がハンティング・ライセンスを取得するには、承認されたハンター教育プログラムを修了しなければなりません。

非居住者は Small Game と渡り鳥を獲ることのできるライセンスを購入することができます。渡り鳥を獲るためのライセンスはユーコン各地の郵便局で購入可能です。

非居住者が Big Game (ヘラジカ、カリブー、バイソン、マウンテン・シープ、マウンテン・ゴート、鹿、エルク、黒熊、グリズリーベア、オオカミ、コヨーテ、ウルヴァリン) を 獲る場合には、特別なガイド免許を所有する居住者ハンター、もしくはアウトフィッターに雇われている Big Game ハンティング・ガイドが同行する必要があります。

ゲーム・アウトフィッターのリスト

Yukon Outfitters Association

(電話: 867-668-4118), メール

info@yukonoutfitters.net. または、インターネット
サイト yukonoutfittersassociation.com をご覧ください



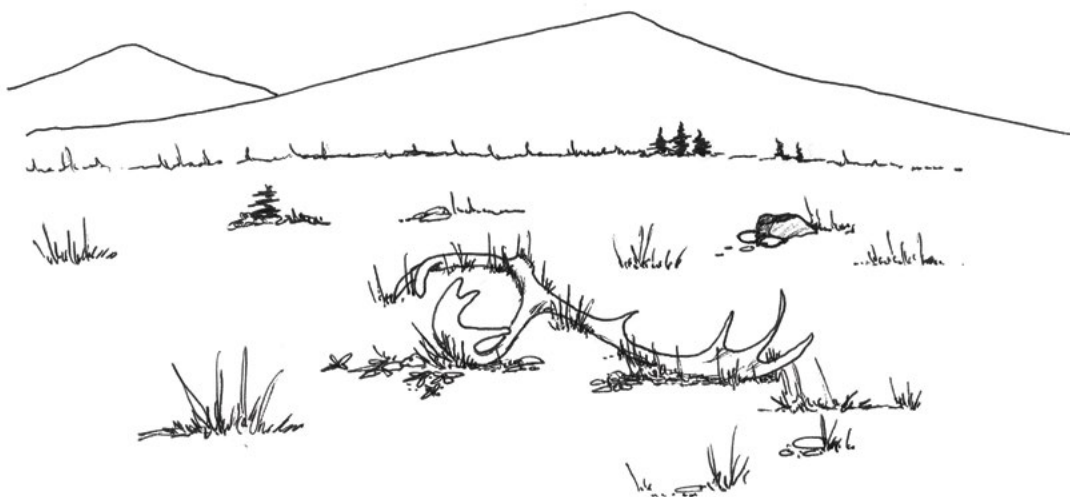
銃器概要

ユーコンの原野を旅するにあたり、銃は必要な装備ではありません。実際、ユーコンの居住者や旅行者の多くは、カヌーやハイキングに出かける際に銃を携行しません。銃は重いし、それで狩りをして生きていけるわけでもありません。また慣れない人が使用すれば、致命的な事故が起こる可能性もあります。殊に、Kluane, Ivvavik, Vuntut などの国立公園内では、先住民やイヌヴィアルウィットの人たちが狩猟権利を行使している時以外には、銃を持ち歩くことは許されません。

- ハンティング、またはクマのための護身用に銃を持ちたいと決めるときには、下記に述べるカナダの厳格な法律に従って下さい。
 - 鍵のかかったケースに収納する
 - 引き金をロックする鍵をかける
 - ボルトを外しておく
- 銃を鍵のかかる容器に収納できない場合には、弾薬を別の離れた場所に保管する必要があります。これらの銃器保管に関する法律は、極地の原野では適用されません。
- 銃は、移動の際には弾薬を抜いておかなければいけません。車内に置いておく場合には、トランクがある場合はその中に入れて鍵をかけ、ない場合は、外から見えないようにして、車に鍵をかけておかなければいけません。もし車に鍵がかけれない場合には、誰かが銃と一緒に車の中になければいけません。
- 極地の原野では人の目につかない場所で引き金に鍵をした状態であれば、銃を置いて離れることも許可されます。また、もし動物など危険をコントロールする目的であれば、引き金に鍵をかける必要はありません。
- ここに記載した法律は、ハンティング用のライフルと散弾銃のみに適用されます。拳銃やその他の制限された銃器については、さらなる法律が適用されます。

詳しい情報

RCMP Canadian Firearms Program (無料電話: 1-800-731-4000) にお問い合わせ下さい。



野生動物の部位

野生動物の部位で、あなたが許可なしで持って帰れるものは、自然に抜け落ちた角だけです。

もし動物の死骸の部位を見つけ、それを所持したい場合には、それをユーコン環境庁 (Dept. of Environment) のオフィスに持ち寄り、許可の申請をして下さい。野生動物の部位とは、角、皮、爪、歯、肉、その他の死骸の部位です。

環境保護オフィサーがいくつかの質問をし、問題が無い場合には許可証が発行されます。

ユーコンから持ち出す場合

野生動物の部位や製品をユーコンから持ち出す場合には、前もってユーコン環境庁 (Dept. of Environment) のオフィスで輸出許可証を取得しなければなりません。また、以下の種類の動物の部位をカナダから持ち出す場合には、特別なCITES 許可証を申請する必要があります。

グリズリー・ベア、ポーラー・ベア (シロクマ)、クロクマ、ウッド・バイソン、オオカミ、リンクス (オオヤマネコ)、オッター (カワウソ)

アメリカやドイツなど多くの国では、野生動物の部位の輸入について自国の規制を設けています。持ち込み国独自の輸入に関する規則の詳細をきちんと調べることが大切です。

野生動物の部位やそれを使った製品を販売もしくは購入する場合には、別の規則が適用されません。

詳細は、Yukon.ca/wildlife-parts をご覧ください。

Contact

環境庁 Department of Environment offices

Whitehorse

10 Burns Road
Box 2703
Whitehorse, YT Y1A 2C6

867-667-5652
environmentyukon@gov.yk.ca

Carmacks

110 Nansen Road

867-863-2411

Dawson City

Dawson City Museum
Second Floor

867-993-5492

Faro

336 McQuesten Road

867-994-2862

Haines Junction

109 Pringle Street

867-634-2247

Mayo

Government of Yukon
Administration Building,
Centre Street

867-996-2202

Ross River

Across from the Dena General Store

867-969-2202

Teslin

Km 1246 Alaska Highway

867-390-2685

Watson Lake

1010 Centennial Avenue

867-536-3210



For further information
1-800-661-0408 (toll free in Yukon)
environmentyukon@gov.yk.ca
Yukon.ca

Visitor Information Centres

Whitehorse

100 Hanson Street
Box 2703
Whitehorse, YT Y1A 2C6

867-667-3084
vic.whitehorse@gov.yk.ca

Beaver Creek

On the Alaska Highway

867-862-7321

Carcross

Carcross Commons

867-821-4431

Dawson City

At the corner of
Front and King Street

867-993-5566

Haines Junction

In the Da Kų Cultural Centre

867-634-2345

Watson Lake

At the junction of the Alaska and Robert
Campbell highways

867-536-7469



For tourist information
867-667-5340
1-800-661-0494 (toll free in Yukon)
vacation@gov.yk.ca
travelyukon.com

National Parks
pc.gc.ca

First Nations offices

Council of Yukon First Nations

867-393-9200 (Whitehorse)

Carcross/Tagish First Nation

867-821-4251 (Carcross)

Champagne and Aishihik First Nations

867-634-4200 (Haines Junction)

867-456-6888 (Whitehorse)

1-866-803-2697 (toll free)

First Nation of Na-Cho Nyäk Dun

867-996-2265 (Mayo)

Kluane First Nation

867-841-4274 (Burwash Landing)

1-866-558-5587 (toll free)

Kwanlin Dün First Nation

867-633-7800 (Whitehorse)

Liard First Nation

867-536-5200 (Watson Lake)

Little Salmon/Carmacks First Nation

867-863-5576 (Carmacks)

Ross River Dena Council

867-969-2277 (Ross River)

Selkirk First Nation

867-537-3331 (Pelly Crossing)

Ta'an Kwäch'än Council

867-668-3613 (Whitehorse)

Teslin Tlingit Council

867-390-2532 (Teslin)

867-456-4806 (Whitehorse)

Tr'ondëk Hwëch'in

867-993-7100 (Dawson City)

1-877-993-3400 (toll free)

Vuntut Gwitchin First Nation

867-966-3261 (Old Crow)

867-633-2911 (Whitehorse)

White River First Nation

867-862-7802 (Beaver Creek)

1-866-862-9736 (toll free)

ユーコンの野生動物を守るために

24 時間、匿名希望受付、謝礼あり

密猟・環境汚染 報告制度

密漁や環境汚染の現場を見たら、報告してください。

1-800-661-0525 (無料電話)



協力方法

もし万一、誰かがハンティングやフィッシングの違法行為をしたり、環境法令に違反しているのを発見した場合には、彼らに直接立ち向かうことは避けて下さい。不快な反応を受けるかもしれません。それは、私たち環境保護オフィサーの仕事です。あなたには、注意深く状況を観察し、下記の情報を記録することでご協力いただけます。

- 期日と時間
- 場所
- 違反者の人数
- 違反者の特徴
- 車両の色、種類、ナンバープレート
- 違反内容や行為の詳細

違反行為を発見した場合には、直ちに **TIPP** ラインの番号 **1-800-661-0525** に電話して詳細を報告して下さい。これらは、野生動物の保護に協力する行為であり、謝礼の対象者として選ばれる可能性もあります。



